

ほろたま展 2017

彩の国

— SAINOKUNI —
Ancient colors and glow

古代の色と輝き



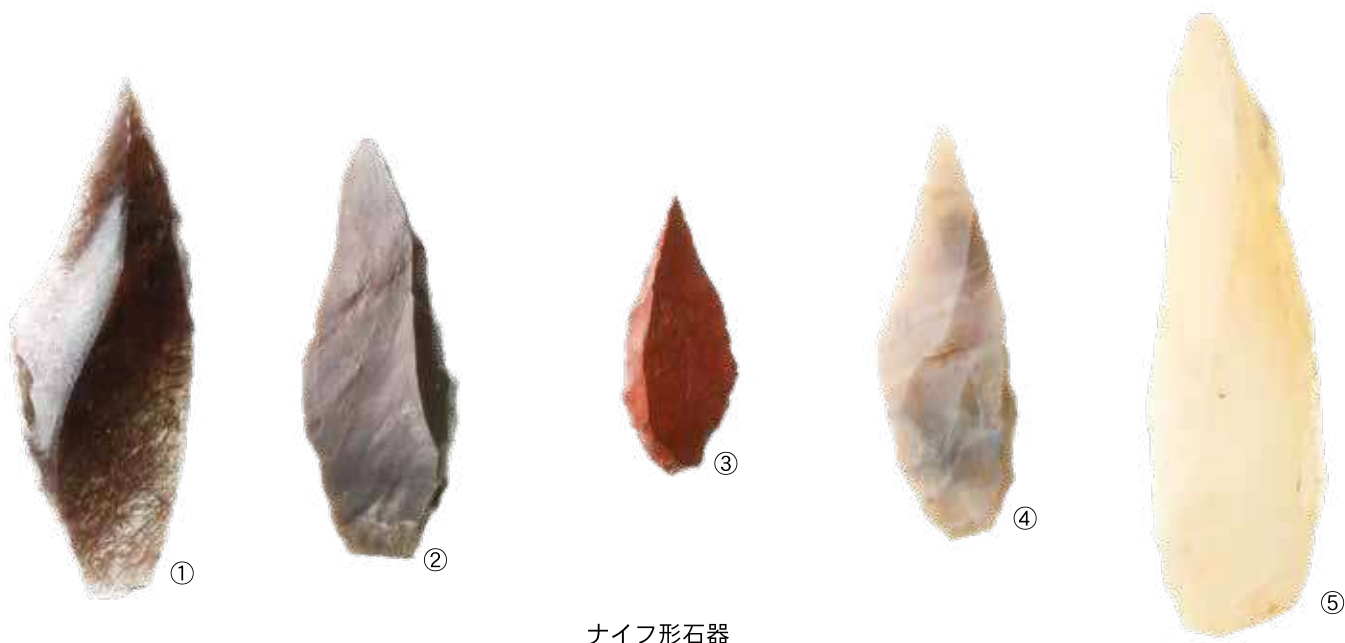
埼玉県の遺跡から発見される土器や石器などの出土品は、褐色や灰色など、モノトーンの色調のものがほとんどです。しかし、それらが作られ、使われていた頃もはたして同じ色をしていたのでしょうか。なかには、地中に長い間埋まっていたため、色が失われてしまったものもあったと考えられます。今回の展示会では、旧石器時代から江戸時代までの、鮮やかな色や光を放つ出土品を中心に集めてみました。当時の人々が色彩や輝きにどのような意味を込めていたのかを探ってみたいと思います。

旧石器人の色づかい

Paleolithic Age (旧石器時代)

今から約2万5千年前、旧石器時代の人々が狩りに使うヤリの先につけた石器（ナイフ形石器）には、作りやすく、ヘリが鋭くなるガラス質の石材が好んで使われました。関東地方には、これといった石材の産出地がないため、さまざまな石材を用いていました。長野県や栃木県などに産地がある、黒く光る「黒曜石」はよく知られています。なかには、赤い「赤玉石」^{あかだまいし}（碧玉の一部）^{へきぎよく}で作られたナイフ形石器があります。普通のものよりも小さくて、狩りにわざわざ使う必要がなさそうな大きさです。実用品ではなく、獲物がとれて無事に帰れることを願ったお守りだったのかもしれません。

- ①荒川附遺跡（蓮田市）黒曜石 あらかわづけ
- ②今羽丸山遺跡（さいたま市）チャート こんばまるやま
- ③提灯木山遺跡（桶川市・北本市）赤玉石 ちようちんぎやま
- ④中尾緑島遺跡（さいたま市）玉髄 なかおみどりしま ぎよくずい
- ⑤宮廻館跡（川越市）メノウ みやまわりかんせき





ふせんもん とうこうじゅうら
浮線文土器 東光寺裏遺跡（深谷市）

縄文時代前期（今から約 5,700 年前）の土器です。文様をつける一つの技法で、細い粘土紐（浮線）を貼り付けて焼いています。粘土紐に使う粘土に、鉄分の含まれる量が少ないと、このように白く発色します。縄文人の土器づくりの知恵と経験が生かされています。



じゅうのう
漆塗土器 寿能遺跡（さいたま市）



ちゅうこう なかさんや
注口土器 中三谷遺跡（鴻巣市）

いけいだいつきどき
赤と黒の異形台付土器
すわのき
諏訪木遺跡（熊谷市）



Jomon Period (縄文時代)

縄文の彩り

縄文土器は、その造形に注目されがちですが、鮮やかな色彩を今にとどめる土器も出土します。特に、後期（約 3,500 年前）になると、黒く輝く土器や、黒と赤のコントラストがある土器が作られるようになります。黒は、表面を磨いてから「いぶし焼」にして黒く発色させたり、焼いた後に黒漆を塗ったりしたもので、赤は、朱やベンガラ（赤い顔料）を漆液などに混ぜて塗ったものと考えられています。

赤は、縄文時代から好んで使われていた色です。朝夕の太陽や血の色でもあることから、復活再生の色ともいわれます。縄文の人々は、赤い色に生命力が宿っていると考えていたのでしょうか。



せきさいだいつきばち
赤彩台付鉢 長竹遺跡（加須市）

赤

Yayoi Period (弥生時代)
Kofun Period (古墳時代)

い土器の世界

弥生時代になると、全体が磨かれた赤い土器が出現します。表面に赤色顔料のベンガラを含んだ粘土（化粧土）を塗り、ていねいに磨いてから焼成したものと考えられています。埼玉県では、弥生時代後期から古墳時代前期（約 2,000 年前～ 1,700 年前）にかけて、^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓と呼ばれる低い盛土をした墳墓に赤い土器が供えられる例が多くみられます。赤はまた、魔よけの色ともいわれています。墓に葬られた人が安らかに眠れるようにとの、祈りが込められていたのかもしれません。



^{つぼ} 赤彩壺 ^{おおきど} 大木戸遺跡（さいたま市）弥生時代後期



方形周溝墓に供えられた赤彩土器 ^{なかこう} 中耕遺跡（坂戸市）古墳時代前期



^{おおにし} 赤彩壺 大西遺跡（東松山市）弥生時代後期

赤い顔料の種類

朱（水銀朱）

鉱物名：^{しんしゃ}辰砂 化学名：^{りゅうかすいぎん}硫化水銀（HgS）

良質なものは貴重で、古くは三重県や奈良県が特産地として知られていました。

ベンガラ

鉱物名：^{せきてつこう}赤鉄鉱 化学名：^{さんかだいにてつ}酸化第二鉄（Fe₂O₃）

鉄の赤さびと同じ成分からできており、比較的簡単に入手できたようです。

埴輪の装い

Kofun Period (古墳時代)

埴輪は古墳の墳丘に立て並べられた焼きものです。関東地方では古墳時代後期の6世紀後半になると、家や道具、動物や人物をかたどった埴輪を並べた古墳が多くなります。こうした埴輪の配列は、その地域を治めていた首長がとり行っていた儀式の場面を表したものであるという説があります。人物埴輪の衣服や顔には、赤く彩色されたものがみられます。赤い柄のある上衣や帽子を身に着け、顔に赤い化粧を施して儀式に臨んだ様子が見てとれます。



男子埴輪 古凍根岸裏遺跡 (東松山市)



男子埴輪 やた屋田遺跡 (滑川町)



女子埴輪 代正寺遺跡 (東松山市)



- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 耳環 ① かしま鹿島古墳群 (深谷市) | きりこだま切子玉 ⑥ 蜻蛉遺跡 (草加市) |
| ② さくらやま桜山古墳群 (東松山市) | ⑦ みかじりばやし三ヶ尻林遺跡 (熊谷市) |
| まがたま勾玉 ③ 蜻蛉遺跡 (草加市) | ⑧ とんぼ築道下遺跡 (行田市) |
| ④ いなりまえ稲荷前遺跡 (坂戸市) | ⑨ 大木戸遺跡 (さいたま市) |
| くだたま管玉 ⑤ 築道下遺跡 (行田市) | ⑩ 後張遺跡 (本庄市) |

Kofun Period (古墳時代)

アクセサリーの輝き

古墳時代の首飾りなどに使われた玉類には、へきぎよく碧玉やメノウ、水晶やガラスなど美しい色彩を放つ材質が用いられ、その形もバラエティに富んでいます。耳環(耳飾り)のほとんどは、銅に金メッキが施されたもので、今もその輝きを失っていないものもあります。これらはその多くが、古墳に葬られた人物の副葬品として発見されています。彼らが亡くなった後にも身に付けていたかった理由が、その色や輝きにあることは、現代人にも容易に理解できることでしょう。



緑釉陶器

古代の色

日本古来の色を示す言葉は、黒・白・赤・青の4つであり、語尾に「い」をつけて形容詞として使うことができるのもこの4色に限られます。緑は古くは青に含まれていました。今でも、緑色の信号を「青信号」、緑の野菜を「青野菜」というのは、その名残と考えられます。

青と白のやきもの

Heian Period (平安時代)

ともに人工的に釉をかけた陶器です。当初は仏器などに用途は限られていましたが、9世紀前半から愛知県の猿投窯で本格的な生産が開始されると、都の貴族が日常生活に使うようになりました。

埼玉県では9世紀後半～10世紀にかけて、主に規模の大きいムラの跡や寺院の跡から出土しています。それまでにはない輝きをもつ美しさから、庶民にとっては憧れの器だったと思われます。

青のやきものー緑釉陶器
鉛ガラスの基礎釉に、緑青（酸化銅）を加えた釉をかけた陶器で、焼くと緑色に発色します。

白のやきものー灰釉陶器
植物の灰を主成分とした釉をかけた陶器で、白い生地に澄んだ色調の釉がかかっています。

- | | |
|-------|-------------|
| ① 輪花碗 | 北島遺跡 (熊谷市) |
| ② 稜碗 | 中堀遺跡 (上里町) |
| ③ 輪花碗 | 中堀遺跡 (上里町) |
| ④ 皿 | 森坂遺跡 (入間市) |
| ⑤ 皿 | 北島遺跡 (熊谷市) |
| ⑥ 耳皿 | 中堀遺跡 (上里町) |
| ⑦ 碗 | 中堀遺跡 (上里町) |
| ⑧ 碗 | 清水谷遺跡 (深谷市) |
| ⑨ 水滴 | 北島遺跡 (熊谷市) |
| ⑩ 瓶 | 中堀遺跡 (上里町) |
| ⑪ 皿 | 中堀遺跡 (上里町) |
| ⑫ 碗 | 北島遺跡 (熊谷市) |



灰釉陶器

霊

Kamakura period (鎌倉時代)
Muromachi period (室町時代)

界の色・青石塔婆

板碑は、主に鎌倉時代から室町時代に掛けて造られた石製塔婆の一種で、祖先の追善供養や、自分の死後の冥福を祈って建てられました。中でも長瀬町や小川町で採石された緑泥片岩を用いた「武蔵型板碑」は、埼玉県を中心に盛んに建立され、その総数は4万基を超えています。その色合いから、青石塔婆という別名もあります。板状に割れて加工しやすい緑泥片岩は、板碑に適した材質といえますが、霊界の色といわれる青（緑）という色合いも、好まれて用いられていた理由の一つではないかといわれています。



この板碑には主尊として阿弥陀如来を意味する文字が彫り込まれています。金色の仏様を表現するために、この部分には金箔が押されていましたが、今はほとんど剥落しています。そこで、画像を加工して建立時の姿に復元してみました。



板碑 応永二 (1395) 年銘 金井遺跡 (坂戸市)

江

Edo Period (江戸時代)

戸のコスメ

江戸時代の出土品にはさまざまな種類があり、他の時代の遺跡に比べてその色彩は豊富です。今回は、お化粧にかかわる道具を集めました。江戸時代の女性のお化粧は、白粉を塗り、くちびるやほほに紅をさし、毛を抜いた眉に眉墨を塗って形を整えます。結婚した女性は、歯にお歯黒を塗って黒くする風習がありました。

陶磁器には、紅を付けるときに使った紅猪口や、髪につける油をいれた髪油壺、お歯黒の染料になる鉄漿水（酢に鉄くずを溶かしたもの）を作るためのお歯黒壺などがあります。



①髪油壺 光山遺跡群 (川越市・鶴ヶ島市)
②お歯黒壺 宮廻館跡 (川越市)
③紅猪口 川越城跡 (川越市)

熊谷 八木橋百貨店

平成 29 年 7 月 27 日（木）～ 8 月 1 日（火）

秩父 矢尾百貨店

平成 29 年 8 月 16 日（水）～ 8 月 21 日（月）

ららぽーと富士見

平成 29 年 10 月 6 日（金）～ 10 月 9 日（月）

そごう大宮店

平成 29 年 11 月 2 日（木）～ 11 月 5 日（日）

埼玉県立さきたま史跡の博物館

平成 29 年 12 月 9 日（土）～平成 30 年 2 月 12 日（月）

主催／公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催／埼玉県教育委員会・埼玉県立さきたま史跡の博物館・

富士見市教育委員会

後援／熊谷市教育委員会・秩父市教育委員会・横瀬町教育委員会

協賛／株式会社八木橋・株式会社矢尾百貨店・ららぽーと富士見・

そごう大宮店

平成 29 年 7 月 26 日発行

編集・発行 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目 4 番地 1

TEL 0493-39-3955 <http://www.saimaibun.or.jp>